

27 日近村吉のタバサマについて

日近の吉にタバサマと言う所があるのをご存知ですか。田狭と書き表します。備中誌は、ここに吉備上道臣田狭の居館があったと言います。

雄略天皇の7年、およそ1500年の昔、この田狭と天皇の間に騒動が起きました。後に、吉備のヤマトに対する反乱伝承の一つに数えられるものです。

騒動とはつまり、田狭が宮廷で妻稚媛の美しいことを自慢するのを聞いた天皇が、田狭を朝鮮半島任那の国司に派遣し、留守中に稚媛を奪ったことから始まる一連の事件です。

怒った田狭は、新羅と組んで天皇に反旗を翻します。天皇は田狭の子の弟君と吉備海部直赤尾を派遣して、新羅の討伐と百済の技能者を日本に連れ帰ることを目論みますが、その際、旗色のはっきりしない弟君が、田狭から、父親の味方をするようそそのかされました。これを知った弟君の妻樟媛は、弟君を殺し、赤尾と共に百済の技能者を連れ帰ったというものです。

古代史研究者には、この事件を巨大古墳を築き天皇家を凌ぐほどの実力を誇った吉備氏が5世紀末から衰えてゆくことを暗示する事件の一つに数え、その裏に、大和政権が長期化する朝鮮侵略に備え吉備の鉄生産を掌握しようとし、両者にせめぎ合いがあったことを挙げている方もいます。(1982年「吉備氏反乱伝承の再検討」湊哲夫)

大陸から製鉄、製塩、水運、土木等の高度な技術を取り入れ大和を凌ぐ豊かさを手にした吉備に対して、大和政権は、氏姓制度・部民制度を取り入れ豪族や民衆を抑え政治力、軍事力を整えました。この結果、吉備の豪族は豊かさでは大和政権を凌ぎましたが軍事的能力では及ばず、彼の軍門に降ることになったのです。(郷土文化講座「岡山の歴史と文化」柴田 一)

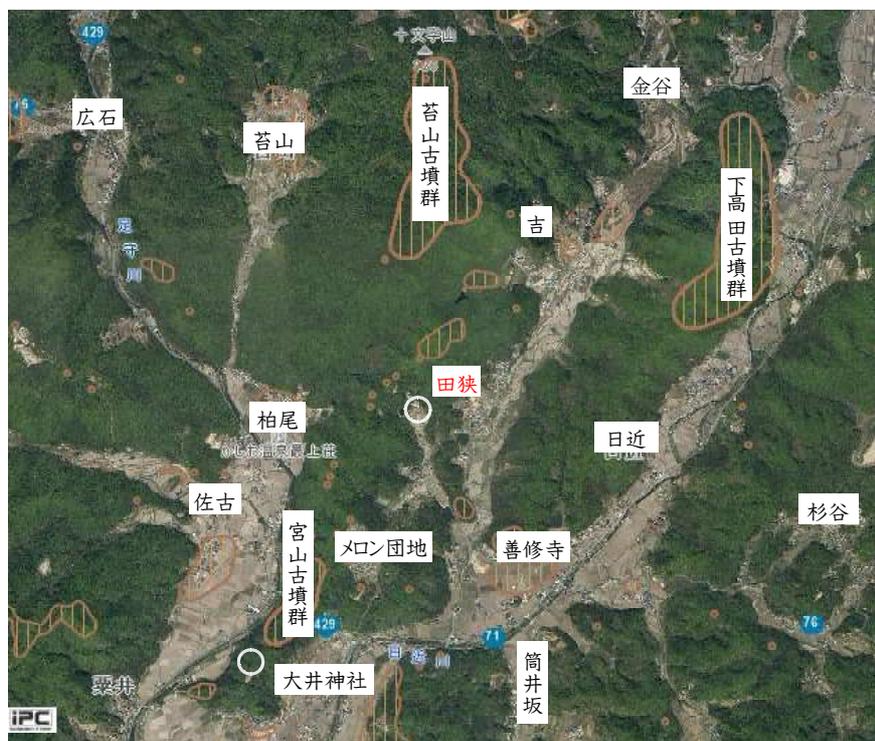
ここらあたりになると諸先生の論争は熱を帯びます。ヤケドをしないうちに、話しは本題へ戻します。

百聞は一見にしかず。では、備中誌が言う田狭の居館の跡、吉のタバサマへ行ってみましょう。

田狭は、日近の吉村口から市道を北にとり、善修寺西の分岐点から西北に向け田狭池の脇道を上ります。

分岐点に柏尾を示す道標があるとおり、この道は高田・柏尾・苔山を短絡する生活道だったようですが、

今、峠道は樹木や竹が生い茂り、行き止まりの袋小路集落となってしまいました。かつてこ





岡山市北区吉字田狭 (前方水田～手前の草地) 深茂の龍王山を遠望

の一带は湧き水以外に生活水源の無い所でしたから、今も、字金水と字西の上に残る共同井戸は、水神様をお祀りし大切に保存されています。

目指す田狭は、集落を突き抜けた行き止まり地で、三方を山に囲まれた南向きの緩斜地です。南に深茂の龍王山を一直線に望めます。

古代の館はこういう小高い地を選んで建てられたと言えそのようにも考えられます。館の

消滅後は、「コウゲ」と呼ばれる水の乏しい草生地だったものが、昭和7年の黒谷池改修工事に伴う、柏尾からの峠部200mの導水トンネル工事をもって、足守川の水が導かれ水田に模様替えされたものでしょう。

地区内の小字は、一体に「新池」「西ノ上」「大山」「池の上」「家の上」「柚の木の間」「彦四郎畑」など分かり易いのですが、「田狭」とはどういう意味なのでしょう。上道臣田狭の名前を借用したものか否か。ともかく、地名には誰もしが納得する意味が込められているものです。

同じ様な意味で興味深いものがもう一つあります。集落を見下ろす高地に祀られる田波大明神です。地区の人は「たわだいみょうじん」と呼び、大が付くとおり、並の明神様を超越したスーパー明神だと言います。田狭と田波には因縁があると考えたいのですが、今になって尋ねる人の居ないのは残念なことです。

また、この社には荒木神社と一緒に祀られています。荒木氏は、



田波大明神と荒木神社を祀る



柚ノ木ノ段にある柚の木の古木 高松稲荷柚煎餅の原料を提供

今城氏とか新木氏などと同じ意味で、日本への後発渡来組のことを指すことがあります。半島に渡った上道臣田狭のその後のことは不明です。反乱が不発に終わった田狭は、技能者集団を引き連れて吉備国へ帰り、荒木氏と名乗り故郷へ定住したのです。

田狭地区の周辺を見てください。山の尾根に、集団或いは単独で無数の中小古墳が散在します。立派な水田があるとは言えない土地柄にもかかわらず、果たしてどのような産業を起し、このような富を得たのでしょうか。これらが密かに帰国した田狭、即ち荒木氏によるものならば、荒木神社の祭神は上道臣田狭かも知れません。

そうだとすれば、吉備津神社が田狭からの参拝者を本殿でもてなす事実は、吉備津神社代々の神官が上道臣の子孫である賀陽氏であることを考えれば当然のことです。

【田狭について…】

右の写真は、深茂龍王山から田狭を望んだものです。つまり狭とは、山あいの狭間はざまの意味ではないでしょうか。今川義元が織田信長に敗れた桶狭間おぼさまも狭間の大小の別はあれ、ここと同じような地形でしょう。山ノ上地区の小葉様も、地形上、つまりは小狭間だと思ふのです。



龍王山から望む田狭